

心理学科新入生の興味関心・ 進路希望・進路知識の縦断比較

水 野 り か*

問題と目的

心理学科は2002年度に新設された学科である。そのため新設当初は、どのような興味・関心を持つ学生が入学してくるのか、どのような進路希望を持っているのか、そして、その進路に関する知識は十分なのか否かについて不明な点が多かった。また、最近の臨床心理学ブームには、犯罪者の心理を解き明かす心理学者を主人公としたテレビ・ドラマやワイドショーなどの影響を受けた部分があり、そうした情報をうのみにした高校生の心理学に関する知識が大きく歪められている可能性が否めなかった。

心理学には、心理的な問題を抱える人々の治療を目的とした臨床系の心理学だけでなく、健常者の発達過程、社会的相互作用、学習と記憶、知覚・認知過程、等のメカニズムを解明することを目的とした実験系の心理学がある。また、心理学はあくまでも行動の科学であり、臨床系の心理学でも実験系の心理学でも実験・調査・面接によって得られる膨大なデータと累積された科学的根拠・知見を照らし合わせ、客観的に人間行動を分析する。しかしながら、高校までは心理学を学ぶ機会がないため、多くの高校生はこのことを十分知らない。

こうした情報不足とマスコミによる情報の歪曲が入学者にどのような影響を及ぼしているかを明らかにすべく、水野・西口（2003）は、開設直後の心

* 人文学部教授—学習心理学・認知心理学・認知科学

理学科の新入生の心理学への興味・関心や、進路知識等を問うアンケート調査を実施した。その結果、予想通り、彼らの入学前の興味・関心は犯罪心理学に偏り、心身障害者の療育や福祉などからは離れているなど、マスコミ等に影響された偏ったものであることが見出され、十分かつ正確な広報活動、特に、ホームページを利用した正確な広報活動の必要性が強く示唆された。

そこで心理学科は、このアンケート直後から、学科のホームページを充実させるなどしてできるだけ正確かつ十分な情報の提供に努めた。そして水野(2004)は、開設2年目にも先と同様の調査を実施し、2002年度入学生との比較を行った。そしてその結果、2003年度入学生では、興味・関心のある領域が、1. 心理学全般であると記述した者が著しく増え、2. 未記入の学生が顕著に減り、3. 具体的な心理学領域を挙げた者、及び、その領域の種類が大幅に増えるなど、広報活動の成果が上がったことが明らかとなった。

注目すべきは、多くの私学が行うような臨床ブームに便乗した偏った広報活動ではなく、心理学全般を満遍なく教育するという正確な広報活動を行っても、心理学科の志望者が減少しなかったことである。そればかりか、正確な情報を得て入学した学生たちには、より明確な興味や目標を持ったものが目立つようになった。

実際、伝統ある国立大学の心理学科は、そうした偏りのない心理学を教育しながら安定的に存続してきているのであり、一次的なブームに便乗した教育の偏りは、一次的な志願者の増大につながるだけで、長期的に見れば危険であり、堅実さと安定性に欠ける。

そこで心理学科教員は一丸となって、この1年も偏りのない教育と正確な広報活動を継続してきた。

本研究は、こうした過去3年間の成果が、入学者の興味・関心や進路希望・進路知識にどのように影響してきたかを、縦断的に比較することを目的とした。

ただし、興味・関心については、縦断比較に加え、2004年度入学生の興味・関心が春学期のフレッシュマン・ゼミAでの心理学全般の入門教育によって、どのように変化したかについても調べるものとした。

方 法

被調査者 心理学科1年生，2002年度は79名中59名。2003年度は94名中83名。2004年度は87名中85名。

調査日 2002年度は4月22日，2003年度は4月9日，2004年度は4月14日と7月14日。

調査項目 Appendixに示す。1は入学前に興味・関心のあった心理学領域について問うもので，自由記述させた。ただし，2004年度7月7日実施分では，フレッシュマン・ゼミAを受けてみて最も興味・関心を持った心理学領域について記述させた。以下は，2．心理学以外の領域を含めた興味・関心（9項目），3．進路希望（12項目），4．進路・職業に関する知識（9項目）について，「1．全然ない」～「5．非常にある」等の5件法で評定させた。そして最後に，5．心理学科に対する要望の自由記述欄を設けた。

結果と考察

1．興味・関心のある心理学領域

1) 2002年度，2003年度，2004年度入学生の縦断比較

自由記述された領域を，重複を許してカウントした。毎年入学者数が異なるため，Figure 1には，パーセントで表示した。

以下，過去3年間で顕著に変化した点について，考察する。

臨床心理学への興味の変化 過去3年間を通じて臨床心理学への興味は非常に高い。Figure 1を見ると，臨床心理学の比率が2002年度に高く，2003年度に低下し，2004年度に再び上昇したように見えるが，実はそうではない。2003年度の入学生が臨床心理学とカウンセリングを別々に記述していたからに過ぎず，これは，彼らにカウンセリングが臨床心理学に含まれるという

正しい理解ができていなかったことを示している。実際、双方をあわせた比率は、2002年度が55.1%，2003年度が43.8%，2004年度が31.9%であり、徐々に低下してきている。

以上のことは、入学前に臨床心理学とカウンセリングに興味があった学生は非常に多いものの、その割合は年々徐々に減少してきていること、そして、カウンセリングの臨床心理学での位置づけがより正確に理解されるようになってきていることを示している。

記述された心理学領域の増加と興味の分散 Figure 1を見るとわかるように、2004年度になってはじめて、入学直後でも学習心理学、学校心理学、相談心理学、文化心理学という特定の心理学領域が記述されるようになり、一方では、福祉心理学、動物心理学という記述がなくなった。

これは、本学心理学科で教育する領域と一致しており、入学者の入学前の本学心理学科の教育についての知識が増大したことを端的に示している。また、福祉心理学がなくなり相談心理学が出現したことは、本学の教育内容についての知識が増えただけでなく、福祉関係の知識が臨床心理学や相談心理学で教育されることなどについてもより正確に理解するようになったことを示している。また、未記入の学生が2004年度には皆無となったことも、彼ら

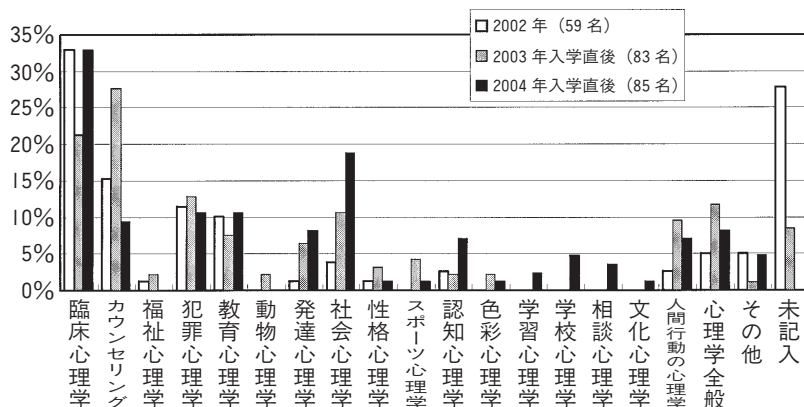


Figure 1 入学前に興味・関心のあった心理学領域

がかなり十分かつ正確な情報を得ていたことを示唆している。

さらに、Figure 1 を見るとわかるように、教育心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学など、以前から記述されていた領域の興味・関心の比率も若干高まっている。このことは、彼らの心理学の各領域に関する知識が増し、その興味・関心が徐々にではあるが分散してきていることを示していると考えられる。

こうした詳しい教育内容は学習塾などのホームページにもあまり記載されていないことから考えて、やはり本学心理学科のホームページが数多くの入学者に参照されたことが正確な情報が伝わる大きな要因の1つとなったものと考えられる。

実際、Figure 2 を見るとわかるように、心理学科のホームページのアクセス数は、人文系にもかかわらず、年間を通じて上位に位置しており、特に、最終的な進路を決定する1・2月は、他より飛躍的に高い。この時期は、冬季休業中を含み、講義もほとんど終了していることから、主なアクセスは学

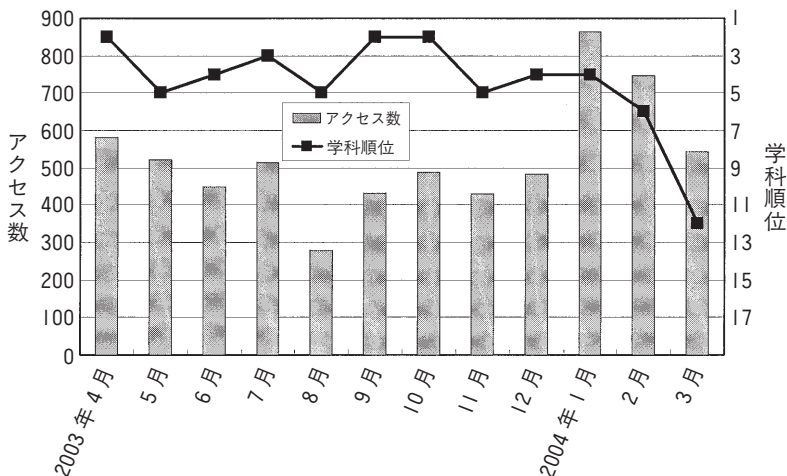


Figure 2 心理学科ホームページの年間アクセス数と学科順位(18学科中)の推移

外からだと思われる。

よって今後も学科のホームページをさらに充実させ、心理学とは何か、本学心理学科がいかに偏りのない充実した専門教育を行っているかを伝えていきたい。

2) 2004 年度入学生のフレッシュマン・ゼミ A 前後の比較

フレッシュマン・ゼミ A では、心理学科分析室でのコンピュータ利用の導入教育に加え、学習・認知・知覚・発達・障害者・臨床・社会・学校・教育心理学という、心理学全般の入門講義を各領域の専門家が分担して教育している。したがって、このゼミで入学者ははじめて、心理学とは何か、どのような領域があるのか、それぞれの目的は何か、等を正確に知ることになる。

2003 年度の調査では、このゼミを受けることで、学生の各心理学に関する理解が高まり、その関心がすべての領域に分散することが示唆された。

そこで 2004 年度についても、フレッシュマン・ゼミ A 後の関心も調査し、これを前後で比較してみた。

結果は Figure 3 に示す通りで、次に述べるような顕著な変化がうかがわれ

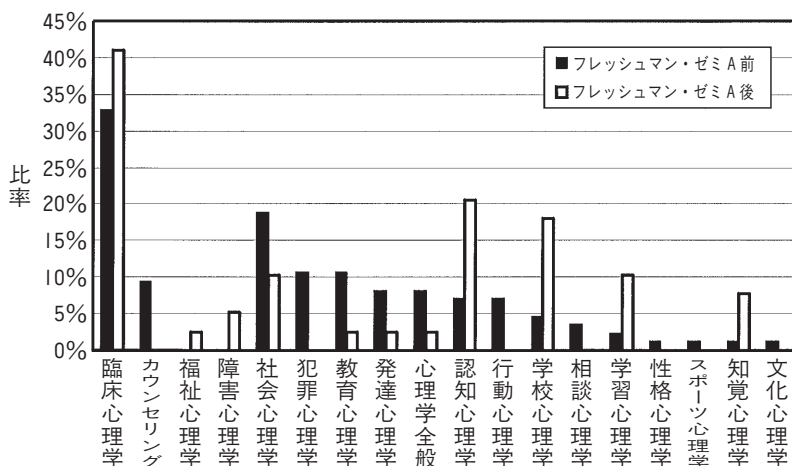


Figure 3 フレッシュマン・ゼミ A 前後の興味・関心のある心理学領域

る。

まず、カウンセリングと記述する学生がいなくなりその分臨床心理学が増えたことは、カウンセリングが臨床心理学の活動の1つであることがフレッシュマン・ゼミAを受けることでよく理解されたことを示している。

また、障害心理学、福祉心理学を挙げる学生が出てきたことは、関心が細分化し、より具体的になったことを示している。

また、犯罪心理学という極めて特殊で、テレビ・ドラマに影響されて知名度が高くなったに過ぎない心理学領域を挙げる学生がフレッシュマン・ゼミA受講前にはかなり多かったが、受講後には皆無となったこと、行動心理学という漠然とした名称を挙げる学生がいなくなったことも、心理学領域、心理学全般への理解が深まった証拠だと考えられる。

さらに、フレッシュマン・ゼミA受講後には、認知・学校・学習・知覚心理学など、実験系心理学の主要領域への関心も高まった。このことは、入学直後には知らなかった心理学領域でも、ある程度内容がわかると、高い関心を示すようになることを端的に示している。

このように、たった半期の入門講義を受講しただけで、学生の心理学の各領域への理解は深まり、関心は分散した。これまでの経験からしても、学年が進むにつれて学生の関心はより分散する傾向にある。

よって現在の、特定の心理学に偏ることなく様々な領域を満遍なく教育する堅実なカリキュラムを継続・維持することは、より多くの学生の興味・関心に則した教育を行うためにも大切なことだと考えられる。

2. その他の興味・関心のある領域・研究

結果をFigure 4に示す。これを見るとわかるように、その他の興味・関心のある領域・研究の評定値は、3年間でほぼ横ばいであり、これが一般的な傾向であることがわかる。3年間を通じて言えることは、以下の3点に集約される。

第1は、臨床系の心理学に興味・関心の高い者が多いはずにもかかわらず

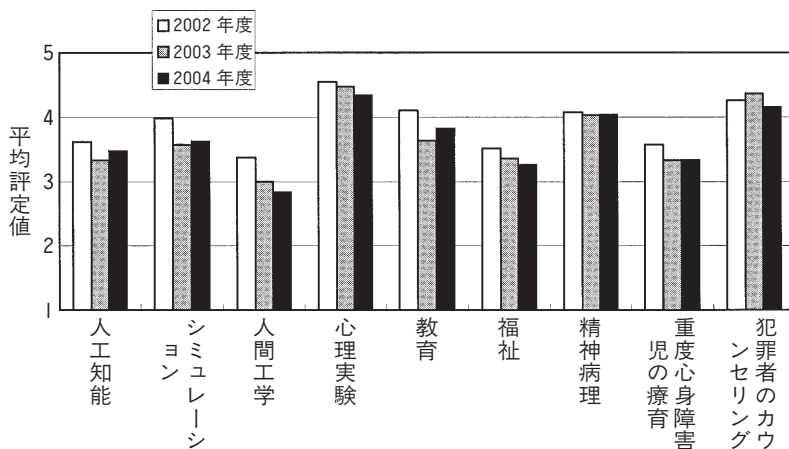


Figure 4 その他の興味・関心のある領域・研究

心理実験に対する興味が非常に高いことで、これは彼らが人間一般の行動のメカニズムを探求する科学的な方法に高い関心を抱いていることを示している。

第2は、犯罪者のカウンセリングという、本学では教育しない非常に特殊な領域に対する興味・関心が高いことで、これは、冒頭で述べたような、犯罪者の心理に関するテレビ・ドラマの影響の存在を如実に示しており、マスコミの流す歪んだ情報が彼らの興味に大きく影響していたことがわかる。

第3は、臨床系の心理学に興味のある学生の比率が非常に高かったにもかかわらず、福祉や重度心身障害児の療育に対する興味がほぼ平均値、つまり、「どちらとも言えない」に近く、人工知能に対する興味が下回るほど低いという点である。これは、彼らの臨床心理学への興味が、実は本来あるべき心に問題を抱える人々や障害者の福祉や教育に対する興味ではなく、犯罪者のような必ずしも心に問題を抱えた者とは限らない、極めて特殊で逸脱した健常者に対する興味である可能性を示唆している。

この第2、第3の問題は、ある意味で非常に深刻な問題であり、より正確な臨床心理学の目的や知見を提供し、彼らの福祉や障害者への理解と関心を

高めていく必要がある。

3. 進路希望

Figure 5 に示す。これについても 3 年間でほぼ横ばいであり、一定の傾向が定着してきたものと考えられる。2003 年度の調査では (水野, 2004), 「特に資格にはこだわらず、大学を卒業して就職したい」と「一般企業に就職したい」が増加し、心理職にこだわらない現実的な進路希望の伸びが指摘されたが、2004 年度もその傾向は維持されている。

その他は、「精神病院等の病院関係に就職したい」が若干増加しているものの、これには大学院で臨床心理士の免許を取得する必要がある、大学院の志望者が増加していないことから考えて、現実的な観点から述べたものではないと考えられる。著しく門戸の狭い一般公務員の希望が再び上昇していることも、同じ観点から説明することができるかもしれない。

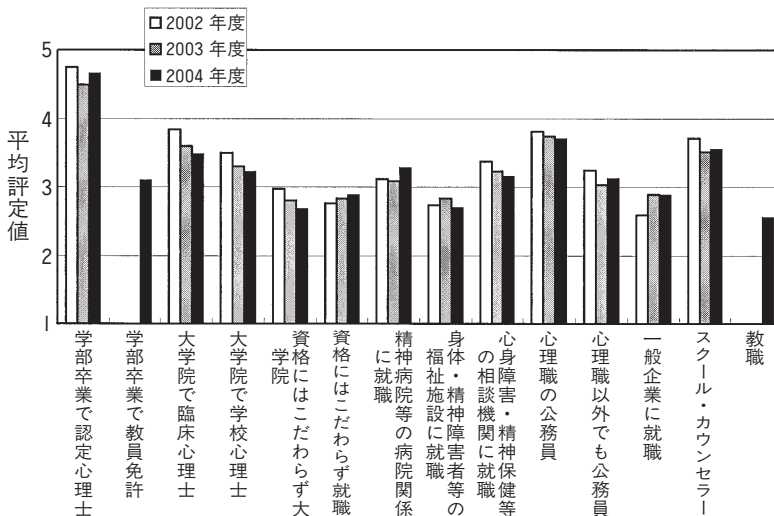


Figure 5 希望する進路

2004年度は、大学院の心理学専攻でも教職の専修免許の取得が可能となり、来年度に向けて、学部でも教職免許の取得を可能にすべく検討が進められているため、この調査では、新たに、教員免許取得と教職に就く希望がどの程度あるかを調べた。Figure 5を見るとわかるように、教員免許の希望は平均以上であったが、実際に教職に就きたいと考えている学生は少ないことがわかった。ただし、教員免許が取得できない現状で、教員免許を取得したいとか教職に就きたいという希望を記すのはあまりにも現実的でないために、評定値が低かったのかもしれない、この点については、免許取得が可能となる来年度以降も継続的に調査していく必要がある。

4. 進路知識

結果を Figure 6 に示す。評定値の平均は 3.0 であるので、全般的に進路に関する知識は著しく乏しい。特に、全項目の平均 (SD) が 2002 年度が

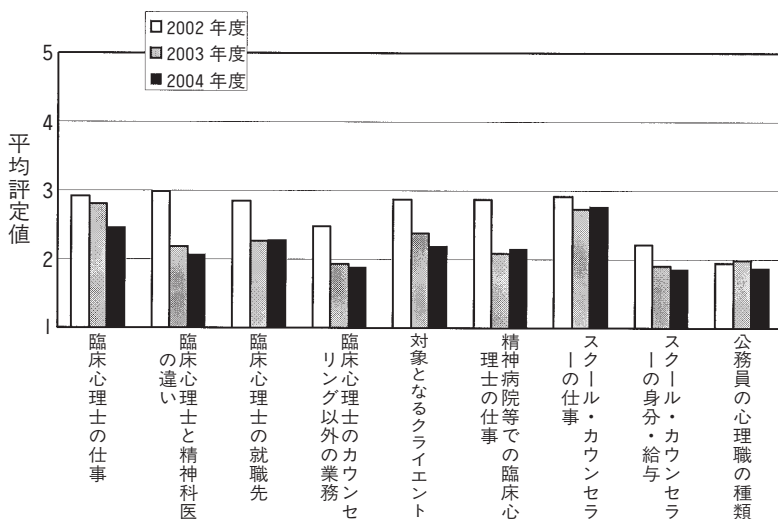


Figure 6 進路に関する知識

2.67 (0.37), 2003 年度が 2.25 (0.33), 2004 年度が 2.17 (0.30) であることから, その傾向は徐々にひどくなってきている。

これは, マスコミや進学塾などから得られる情報が主として資格や進路の名称のみで, その内容に関する十分な情報が得られないためだと考えられる。

心理学科は開設してまだ 3 年しか経っていない新しい学科であり, 就職実績もなく, 先輩からの情報も少ない。実際, 最後の心理学科への要望の自由記述には, 「就職先の情報を知りたい。」「取得できる資格の種類や内容を知りたい。」「スクール・カウンセラーとは具体的にどういう仕事をする職業なのか知りたい。」「公務員の心理職とは何なのか, どういう職業なのか知りたい。」といった希望が目立った。

よって今後は, 進路に関する正確で十分な情報を, 心理学科教員が講義やゼミ, あるいは, ホームページなどを活用しながら, 伝えていく努力が必要であろう。

討 論

3 年間の縦断研究を通じて, 1. 新入生の入学前の心理学の各領域に関する興味・関心は臨床心理学が依然として高いものの, 他の領域にも分散し, 本学の心理学科の教育についての正確な情報が伝わってきたこと, 2. 入学後の教育でその関心はさらに細分化され, 幅広い心理学領域への理解と関心が芽生えたこと, 3. 個別の興味では, 心理実験に対する興味は高いが福祉や心身障害児への療育に関する関心は非常に低く, 問題だと考えられること, 4. 進路希望については, 学部卒での資格取得や一般企業での就職等, 現実的な希望が多くなってきていること, 5. 進路知識は全般的に著しく低く, 入学後に十分な情報提供をする必要があること, などが示唆された。

心理学科ホームページでの学科, 教育, 教員に関する情報の配信は, 入学前の情報の取得に確実に役立ち, 学生の関心も的確かつ幅広いものになってきた。また, 大学レベルでも, ホームページがさらに充実され, ネットワー

クを利用した教育も推進されてきており、心理学科でも、心理学科として学ぶべきスタンダードの確立と e-learning system の導入がはじめられようとしている。

こうしたネットワークの活用は、学内のみならず、学外にも心理学科の教育内容についての正確な情報を伝える足がかりとなるものであり、今後、益々多くの入学生が正しい情報と幅広い関心を持って入学してくることが期待される。

また、2004 年度、心理学科には新たに、臨床心理学 2 名、教育心理学 1 名、知覚心理学 1 名の教員が増員され、臨床心理学の正確な知識の教育や、幅広く堅実な心理学教育を推進する土台ができた。さらに、2004 年度は、新たに大学院が設置され心理学専攻が設けられるとともに、大学院の教職の専修免許の取得が可能となり、学生の進路の選択肢が一段と拡大した。

そして 2005 年度には、心理学科ははじめての卒業生を送り出すことになり、学部から大学院への進学者も数多く出ることが予想される。また、2005 年度には、学部における教職免許の取得を可能にすべく、手続きが進められている。

よって今後も、こうした様々な教育環境の改善が学生の興味・関心や進路希望・進路知識などにどのような影響を及ぼすかを、継続的に調査し、教育や進路指導の改善の足がかりとしていきたいと考えている。

引用文献

- 水野りか・西口利文 2003 心理学科 1 年生の進路希望と進路知識のずれ—問題点の把握と進路指導の指針— 中部大学人文学部研究論集, 9, 175-208.
- 水野りか 2004 心理学科 1 年生の進路希望と進路知識—2002 年度と 2003 年度の入学生の比較— 中部大学人文学部研究論集, 11, 1-14.

Appendix. 調査項目

フレッシュマン・ゼミA受講前用

1. どんな心理学が学びたくて入学を決めましたか？ 名称か内容を簡単に書いてください。

フレッシュマン・ゼミA受講後用

1. フレッシュマン・ゼミを受けてみてどの心理学に一番興味を引かれましたか。名称か内容を簡単に書いてください。

以下共通

2. 各領域への興味についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	全然 ない	あま りな い	どち らと も言 えな い	やや ある	非常 に ある
1) 人工知能に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
2) シミュレーションに興味がありますか……………	1	2	3	4	5
3) 人間工学（座りやすい椅子を作るなど）に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
4) 心理実験に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
5) 教育に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
6) 福祉に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
7) 精神病理に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
8) 重度心身障害児などの療育に関心がありますか……………	1	2	3	4	5
9) 犯罪者のカウンセリングに関心がありますか……………	1	2	3	4	5

3. 希望する進路についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	考えている	やや考えている	どちらとも言えない	あまり考えていない	考えていない
1) 学部卒業で取得可能な認定心理士を取得したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
2) 大学院に入って、臨床心理士を目指したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
3) 大学院に入って、学校心理士を目指したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
4) 特に資格にはこだわらず、大学院に入って勉強したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
5) 特に資格にはこだわらず、大学を卒業して就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
6) 精神病院等の病院関係に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
7) 知的・身体・精神障害者等の福祉施設に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
8) 心身障害・精神保健等の相談機関に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
9) 心理職の公務員になりたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
10) 心理職以外でも公務員になりたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
11) 一般企業に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
12) スクールカウンセラーになりたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
13) 教職の免許を取りたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
14) 教師になりたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5

4. 進路・職業に関する知識についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	全く知らない	あまり知らない	どちらとも言えない	少し知っている	よく知っている
1) 臨床心理士の仕事がどのようなものか具体的に知っていますか……………	1	2	3	4	5
2) 臨床心理士と精神科医の違いを知っていますか……………	1	2	3	4	5
3) 臨床心理士の就職先にはどのようなものがあるかを具体的に知っていますか…	1	2	3	4	5
4) 臨床心理士のカウンセリング以外の業務に何があるか知っていますか……………	1	2	3	4	5
5) どのようなクライアントが対象となりうるかを知っていますか……………	1	2	3	4	5
6) 精神病院等での臨床心理士の仕事の内容を知っていますか……………	1	2	3	4	5
7) スクールカウンセラーの仕事内容を具体的に知っていますか……………	1	2	3	4	5
8) スクールカウンセラーの身分や給与などを知っていますか……………	1	2	3	4	5
9) 公務員の心理職にはどのようなものがあるか知っていますか……………	1	2	3	4	5

5. 要望について

その他、心理学科に希望することがあれば、何でも結構ですので記述してください。

これからの心理学科の参考にします。

ご協力どうもありがとうございました。

(2004 年 7 月 24 日 受理)